

平成25年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	未来へつなぐ“遠山郷”アーカイブ事業
事業主体 (連絡先)	飯田市南信濃公民館 (飯田市南信濃和田 2596-3 電話：0260-34-5111)
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	460,250 円

事業内容

1. 「公民館報やまなみ」の電子データ化

「公民館報やまなみ」の紙面の電子データ化。データを使用しやすいよう、目録も併せて作成した。(165号分 約900ページ)

2. 地域住民が所有する資料の電子データ化

住民への資料提供を依頼し、動画21点、写真160枚のデータ化を実施した。戦時中の16mmフィルムなど当時の様子を伝える貴重な資料を後世に伝える資料づくりにつながった。

3. 公民館における学習活動の実施

「館報やまなみ」を題材に学習会を実施(3回 延参加者32名)。また提供された動画の上映を南信濃公民館女性学級で実施した。(2回 延参加者60名)

4. 電子情報媒体を活用した地域への提供

地域住民が資料を活用できるよう閲覧スペースを南信濃地域交流センター内に設置

5. 高齢者の語り「ふるさとの伝言」事業

高齢者クラブと連携し、編集打ち合わせ会議を実施。次年度に向けた編集方針を決定した。

6. 作成した資料の活用

想定以上の資料提供を受けたため、今年度はマスターデータ整備と複製の作成まで実施した。

女性学級上映会の様子



※1 自己評価 (事業実施率) 【A】

事業効果

- 電子データを作成したことにより、地域の資料を確実に保存し次世代に貴重な資源としてつなげることができた。また、目録を作成したことにより、より身近な館報として活用しやすい環境整備につながった。
- 「公民館報 やまなみ」を題材とした学習会を通じ、何を館報として次世代につなげていくべきかといった議論が深まり、今後の館報の紙面作りに新たな視点を加えることができた。
- 女性学級で、提供いただいた動画の上映会を開催した。当時を伝える資料としては口頭や写真しかなかった中で、戦時中の動画が残されていたことは参加者にとっても改めて地域を、学ぶ機会を創出する事が出来た。

【目標・ねらい】

- 地域の資料の保存を確実なものに次世代に伝える。
- 地域の培ってきた歴史を振り返ることで地域への愛着と誇りの醸成のために活用する。
- 地域内外の人に活用してもらう。

※2 自己評価 (事業効果) 【B】

今後の取り組み

電子化されたデータを今後も公民館で実施する講座等の資料として活用し、地域住民が地域に愛着と誇りを持ち、住み続けたいと思える意識の醸成を向上させ、地域づくりにつなげる取り組みとしていきたい。

次年度は、高齢者の語り「ふるさとの伝言」事業を本格的に事業実施し、今この地域で住み続けている方の目線で地域の事柄を書き残す資料として活用していきたい。完成した資料は電子データと合わせ活用し、今後を担う子どもたちに地域を伝える教材として、また公民館などが実施する事業の中でふるさと意識を醸成させる展開を図っていきたい。

※1 自己評価(事業実施率)欄は、「A」90%以上、「B」70~89%、「C」50~69%、「D」49%以下で示すこと。

※2 自己評価(事業効果)欄は、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある